

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価者版(2016年版) 名古屋建築環境総合性能評価システムマニュアル(2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)名古屋市中区正木四丁目 新築工事 | 階数 | 地上15F/地下1F |
| 建設地 | 中区正木四丁目805番,806番 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域、防火地域 | 平均居住人員 | 98 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年9月 予定 | 評価の実施日 | 2021年12月22日 |
| 敷地面積 | 323 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 250 m ² | 確認日 | 2021年12月24日 |
| 延床面積 | 3,300 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE 0.9

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|---|---------------------------------|
| 総合 | 駅周辺の再開発により建設される、近未来的な建物と見劣りしないデザイン性のあるマンションを目指す | |
| その他 | | |
| Q1 室内環境 | Q2 サービス性能 | Q3 室外環境(敷地内) |
| 複層ガラス採用による断熱性能の向上や庇による日射熱負荷の低減など居住空間の快適性に配慮した。また、シックハウスに配慮し、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上げ材を使用した。 | 種類の異なる床材を隣接させないなど、維持管理性能に配慮した。 | 外壁にはアースカラーを選定し、周囲の景観との調和を図った。 |
| LR1 エネルギー | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境 |
| LED照明を選定し、省エネルギー性を向上させた。 | 節水型器具を採用し、水資源使用削減に努めた。 | 敷地内での駐車・駐輪場の確保に努め、居住者の利便性に配慮した。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中区正木四丁目 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する 重み係数 | 重点項目 スコア |
|----------|-----------------|-----|----------------|-------------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.1 |
| LR1 | エネルギー | 3.2 | 0.4 | / |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.0 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 2.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 1.6 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 1.0 | 0.09 | / |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 無 | 0.009 | |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 2.9 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | / |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 2.7 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 3.0 | 0.01875 | |

結果

| | |
|----------|-----------|
| 1. 温暖化対策 | 評価点 = 3.1 |
| | |
| 2. 自然共生 | 評価点 = 1.6 |
| | |
| 3. 循環型社会 | 評価点 = 2.9 |
| | |

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。